

令和2年度 第3回京都府立図書館協議会 議事要旨

1 開催日時

令和3年2月12日（金）午前10時から12時まで

2 場所

京都府立図書館（京都市左京区岡崎成勝寺町）

3 出席者

原田隆史委員（会長）、明致親吾委員、小川雅史委員、桂まに子委員、亀井貴子委員、潮江宏三委員、永田紅委員、野間万里子委員、安田美樹委員

4 会議の内容

- (1) 令和2年度第2回協議会の議事録要旨について
- (2) 令和2年度取組状況について
- (3) 京都府立図書館サービス計画（最終案）について
- (4) その他

5 協議事項

- (1) 令和2年度第2回協議会の議事録要旨について
 - 事務局から概要について資料に基づき説明
- (2) 令和2年度取組状況について
 - 事務局から概要について資料に基づき説明
 - 委員意見
 - ・ 蔵書検索の場所がわかりづらいので、わかりやすい工夫をお願いしたい。
 - ・ ホームページにアクセスした際に、まず全面に外観の画像が出てから本体のページに遷移するような構成にしてはどうか。
 - ・ 小学校ではタブレットが配備されインターネットを使った調べ学習が始まっている。府立図書館のホームページにおいても、小学生が府立図書館のことを調べる際に府立図書館の役割や市町村立図書館との役割の違いなど、小学生にもわかりやすい概要のページがあると学習しやすい。
 - 御指摘の点は、十分考えて対応していきたい。
 - ・ レファレンス数は、市町村立図書館からのレファレンスを含んでいるのか。レファレンス協同データベースへの登録件数が少ないように思うがどうか。
 - レファレンス数には市町村立図書館からのレファレンス数も含んでいる。レファレンス協同データベースへは、内容を精査した上で件数を絞って登録しているが、今後増やしていくことも考えたい。
 - ・ 総合目録ネットワークシステムの参加館数の目標はあるのか。
 - 現サービス計画においては80機関を目標にしていた。現在100機関を越えて参加いただいている。今後は数値目標としては考えていない。

(3) 京都府立図書館サービス計画（最終案）について

- 事務局から概要について資料に基づき説明
- 委員意見
 - ・ サービス計画におけるグラフについては、色を区別しづらい方への配慮の観点から、工夫の必要がある。
 - 御指摘の点は、十分考えて対応していきたい。
 - ・ 追加された年齢別貸出冊数割合をみると、高校生の年代がほとんど借りていないように見えるが、何か考えられる原因はあるか。
 - 当館では、ヤングアダルトなど中高生向けの図書は扱っていないことが影響していると考えている。
 - ・ 現行計画の評価の達成状況は、もっと前のページにあったほうが良いのではないか。
 - 府教育委員会の他の計画のスタイルを踏襲してこの形としたところである。
 - ・ 評価基準には、定量的な基準だけではなく、定性的な基準も設けてはどうか。例えば、満足度のようなものを設定してはどうか。
 - ・ オンラインサービスで、図書館カードを発行する場合の本人確認はどのような方法で行うのか。
 - 本人確認できるものを写しで送っていただき、カードと一緒に返送することとしている。
 - ・ 府立学校の蔵書についてインターネットを通じて検索し相互貸借する取組は、画期的である。
 - ・ 高等学校への貸出数も統計に入れて評価すれば、高校生の利用についても実績として反映できる。
 - ・ 現在、府立図書館での電子書籍の所蔵数はどのようになっているか。
 - 現在、電子書籍は所蔵していない。コンテンツ数が少ないなどの課題があり、検討が必要だと考えている。
 - ・ 2月から始まった郵送貸出サービスの利用状況はどうか。
 - 現時点で、1件申し込みがあった。電話での問い合わせは10件程度ある。
 - ・ 市町村図書館への研修回数が評価指標から外れたが、今後、オンライン研修も増えていくと思われるので、指標に残してもよいと思うがどうか。
 - 研修回数で評価するのが難しいこともある。オンライン研修も含めてニーズに応じた参加しやすい研修を行っていきたいと考えている。
 - ・ 高齢者層や若者層への具体的な取組が盛り込まれているとさらに良かった。

(4) まとめと2年間の感想

- ・ サービス計画に基づいた事業計画に真摯に取り組んでいただき、十分成果がでた。令和3年度からのサービス計画においても、ぜひこのような取組を進めていっていただきたい。
- ・ 委員の皆さんの意見も聞くことができ、自分自身、大変勉強になった。
- ・ 意見を述べたことが取組として実現していったことは大変良かった。
- ・ 次期サービス計画は、協議会での意見やアドバイスが反映され良いものとなった。

これからの5年間は楽しみである。

- 大学生も図書館に高い関心を持っている。大学生はオンラインでの活動が増えてきているので、図書館の新しい使い方やPRに大学生が貢献できるのではないかと考えている。
- 学校経営を一任されている身として、「学校経営にどのように向き合うか」「評価をどう生かすか」「評価のあり方はどんなふうにするのか」という面で、参考にさせていただいた。
- この協議会の委員となったことをきっかけに、地元の図書館と連携して、学校図書室の改善を進めることができ、このようなことができるのだと知ることができたのがよかった。
- 府立図書館とは普段からいろいろお世話になって関わりもあるが、どのようなことをされているかについては詳しく知らなかったもので、参考になることが多かった。
- 大学図書館や市町村立図書館も府立図書館に支えられている部分も大きいということを実感することができた。
- 岡崎の場所に文化の集積である図書館があるということが、時代が変わっていく中で、象徴的な場として必要だと感じた。
- 図書館は、「待つ姿勢」だったのが「動く姿勢」に変わってきた。いい方向に変わったのではないかと思う。
- より多くの方に知っていただけるような機会をもっと提供していくことが今後の課題である。